

挑戦する会員企業80

環境汚染を可能な限りなくしてゆくために…

お客様の問題解決に全力で取り組んでいます！

グリーンブルー株式会社

はじめに

グリーンブルーは、環境庁が発足した翌年の1972（昭和47）年に（株）日本公害防止技術センターとして創立されました。当時、20代の若者を中心に5人で設立した「日公防」は、若さにあふれるベンチャー企業でした。以来、環境汚染測定分析技術の先端を全力で追いかけてきました。新たな環境問題の顕在化に対応して、一早く新しい技術を身に付け、お客様の環境汚染対策に貢献してまいりました。「パイオニア精神」は、創立34年を経過した現在でも私たちグリーンブルーの基本精神として息づいています。

汚染を「はかる」精度に対する真摯な姿勢

環境汚染対策は、まず汚染の定量的把握から始まります。私たち測定分析（モニタリング）企業の使命と役割は非常に大きなものです。汚染を「はかる」仕事は、物質を含む環境媒体（空気、水、土など）を現場で採取し、そのサンプルをラボで分析にかけ、最終的な結果は数値（濃度や量）で表わします。微量の汚染物質は目に見えず、「数字」のみが汚染の程度を訴えかけてきます。

計量法に基づく環境計量証明事業所として、その数値が「正しい」のは当然のことですが、微量の物質をはかるに当たって高い精度を確保するのは容易なことではありません。私たちグリーンブルーにとって、数値の精度は品質、そして信頼性そのものであり、数字一つ一つが命です。

当社の企業姿勢として、環境汚染分析の精度を科学的、技術的、倫理的なこだわりから追求し、

そのことをお客様にお示しするため、業界の動向にさきがけて国際標準ISO/IEC 17025に取り組みました。2003年6月に全国で19番目に認定を取得（揮発性有機化合物VOCs 9成分、および重金属7成分）、他の分析項目においても、同規格に則った方式により同等に高いレベルの精度管理でご提供できるように取り組んでおります。



大気捕集用キャニスターと分析装置（GC-MS）

国家計量標準にトレーサブルな校正設備

大気汚染防止法に基づいて実施されている常時監視事業は、環境基準の適合判定や光化学スモッグ等注意報・警報の発令など、市民の安全を守る上で重要な役割を担うものです。常時監視に使用される乾式測定機（NO_x計、SO₂計、O₃計）に付属する自動校正用ガス希釈装置の精度保証の問題に着目した当社は、「ISO トロイダルスロート型音速ノズル」を組み込んだ高度な流量校正システムを整備し、2002年8月に計量法校正事業者認定制度（JCSS）に基づく認定事業者となりました。このことでグリーンブルーは国家計量標準の供給機関として位置付けられています。

気体小流量分野で同認定を受けているのは全国

で3社、大気自動測定機の精度管理サービスを提供しているのは当社のみです。



JCSS認定の気体小流量校正設備

環境情報システム開発の展開

大気汚染常時監視事業のテレメータ（遠隔データ自動収集）用システムをEcoDasというブランドで開発しています。NEC、富士通、コベルコといった巨大企業系列のひしめく市場にユニークな独立系として推定20～25%のシェアを獲得しています。EcoDasは、1985年の通信自由化を契機にパソコン通信をベースとして開発されました。大型計算機で占められていた市場に鋭く切り込んだパイオニア精神豊かな当社の主力商品です。地球温暖化対策として省エネ局舎管理を支援する新機能（愛称EpoKis）を搭載し、環境負荷の軽減にますます貢献してゆこうと、鋭意取り組んでいます。

「AMESA」の国内販売総代理店として

焼却工場等からの排ガス中のダイオキシン濃度を監視したい、というニーズは当然ながら非常に高いものです。しかし従来の手法では、ダイオキシン平均濃度ををはかるための試料の連続採取は約4時間が限界で、刻々と変化する排ガスのいわば「一瞬」しかとらえられませんでした。

ドイツのベッカーメステクニク社で開発された「AMESA（アメサ）」は、従来手法の課題を克服し、最長1ヶ月（≒720時間）もの長時間連続採取

を可能にしました。1ヶ月間採取し続けたサンプルからのダイオキシン濃度であれば、排ガスの平均的な質が適切に表現されます。長時間サンプリングをシームレスに繰り返せば、排ガス中ダイオキシンの「常時監視」も可能となるのです。

ベッカー社と当社は、国際学会Dioxin 2001で出会い、その実績と先進性を互いに認め、パートナーとなりました。2002年5月以降AMESAの日本国内販売総代理店として、AMESAが実現する長期連続サンプリングの有効性と、そのデータがもたらす信頼を、訴え続けています。

リサイクルワン社との新しいコラボレーション

以上のように、グリーンブルーはこれまで、環境汚染の測定分析技術者集団として、確かな技術と誠実なこだわりを培ってまいりました。これからの時代には測定値を提供するだけでなく、より価値ある情報を導き出し、お客様の環境リスク対策やコンプライアンス、知的探求心、また個人のお客様の深刻なお悩みにまで、頼もしくお応えできるグリーンブルーとなってまいりたいと考えています。シックハウス、PCB、アスベスト、土壤汚染、と解決しなければならない環境汚染の脅威はまだまだ絶えることはないでしょう。

2006年10月には、環境分野で次々と新しいソリューションを生み出している新進気鋭の株式会社リサイクルワンと業務提携をいたしました。リサイクルワンのソリューション力とグリーンブルーのモニタリング力のコラボレーションが新しい価値を創造し、環境問題の解決に貢献してゆけるよう、引き続き邁進してまいります。

グリーンブルー株式会社

営業開発ユニット

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-14-12

Tel 045-322-1011 Fax 045-322-3133

<http://www.greenblue.co.jp/>